

☆☆☆ミツバチ引き上げは、「4月28日(水)夕方」となります。☆☆☆
薬剤散布は、4月29日(木)以降に実施願います。

※表中の日付は果樹研究所(飯坂町平野)を基準にしております。各園地との差異を考慮し防除願います。
各園の生育ステージに合わせて適期防除に努めてください。

※コンフューザーは、各樹種とも5月10日頃に設置して下さい。

注意事項:展着剤は、各樹種共通でアイヤーエース10,000倍又はラビデン3S 10,000倍を使用する。

【 も も 】(防除暦 25～27頁参照)

散布回数	散布時期	対象病虫害	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)			SS 散布量
4	落花10日後 蜜蜂引上げ後	せん孔細菌病	合ピレ剤使用可能地域			300ℓ
		黒星病	1. マイコシールド	2,000倍	(50g)	
		うどんこ病	2. トリフミン水和剤	2,000倍	(50g)	
		アブラムシ類	3. モスピラン顆粒水溶剤(モモハモグリガ重要防除)	4,000倍	(25g)	
		モモハモグリガ	合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)			
		シンクイムシ類	1. マイコシールド	2,000倍	(50g)	
		(カメムシ類)	2. トリフミン水和剤	2,000倍	(50g)	
			3. アドマイヤー水和剤	2,000倍	(50g)	
1. 今回、カメムシ類の発生が多い場合は、下記の倍数で使用してもよい。 ①合ピレ剤使用可能地域 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g) ②合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) アドマイヤー水和剤 1,000倍(100g) 2. アドマイヤー水和剤は蚕毒期間が長い(60日)ので、使用にあたっては十分注意する。 3. モモハモグリガ・アブラムシの重要防除時期なのでむら無く散布する。						
5	5／10頃	せん孔細菌病・黒星病	1. クプロシールド	1,000倍	(100cc)	300ℓ
		灰星病・うどんこ病	2. コロナフロアブル	400倍	(250cc)	
		(アブラムシ類)(モモシンクイガ)	3. クレフノン	100倍	(1,000g)	
		(カメムシ類)	1. カメムシ類の発生が多い場合には、今回及び5日後にスミチオン乳剤 1,000倍(100cc)を散布する。 2. 高温時は使用しないこと。 3. クプロシールドはクレフノンを加用しないと薬害を生じるおそれがあるので必ず使用すること。			
6	5／20頃	せん孔細菌病・黒星病・灰星病	1. 展着剤			300ℓ
		(モモハモグリガ)(ハマキムシ類)	2. マイコシールド	2,000倍	(50g)	
		(シンクイムシ類)(カメムシ類)	3. ジマンダイセン水和剤	600倍	(165g)	
		(カイガラムシ類幼虫)	1. モモハモグリガの発生が多い場合には、ディアナWDG 1万倍(10g)も使用する。 2. 前年、カイガラムシの被害が多い場合は、アプロードフロアブル 1,000倍(100cc)を今回散布後に使用する。 3. カメムシ類の発生が多い場合には、スミチオン乳剤 1,000倍(100cc)を今回散布後に使用する。 4. モモシンクイガの発生が多い園では、バイオセーフを使用する。(土壌かん注)17ページ参照 5. ジマンダイセン水和剤は、かぶれやすいので注意して使用する。			
7	5／30頃	せん孔細菌病	合ピレ剤使用可能地域			300ℓ
		黒星病	1. クプロシールド	1,000倍	(100cc)	
		灰星病	2. ベルクート水和剤	1,000倍	(100g)	
		果実赤点病	3. フェニックスフロアブル	4,000倍	(25cc)	
		モモハモグリガ	4. クレフノン	100倍	(1,000g)	
		ハマキムシ類	合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)			
		アブラムシ類	1. クプロシールド	1,000倍	(100cc)	
		シンクイムシ類	2. ベルクート水和剤	1,000倍	(100g)	
			3. サイアノックス水和剤	1,000倍	(100g)	
			4. クレフノン	100倍	(1,000g)	
1. アブラムシ類(コフキアブラムシ)の発生が多い場合は今回以降、ウララDF2,000倍(50g)も散布する。 2. 高温時は使用しないこと。						

	3. クプロシールドはクレフノンを加用しないと薬害を生じるおそれがあるので必ず使用すること。 4. サイアノックス水和剤は収穫前21日なので早生種には注意する。	
--	---	--

【 な し 】幸水・豊水・あきづき・秀玉・新高・王秋等(防除暦 79～81頁参照)

☆『黒星病』の花そう基部病斑・発病葉・発病果実は見つけしだい除去し、園外に持ち出し適切に処分する☆

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量	
4	落花1週間後 蜜蜂引上げ後 4／30頃	黒 星 病	合ピレ剤使用可能地域	250ℓ	
		シ ン ク イ ム シ 類	1. 展着剤		
		ク ワ コ ナ カ イ ガ ラ ム シ	2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc)		
		ア ブ ラ ム シ 類	3. バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g)		
		(カ メ ム シ 類)	合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)		
			1. 展着剤		
			2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc)		
			3. サイアノックス水和剤 1,000倍 (100g)		
		1. シンクイムシ類、アブラムシ類、カメムシ類の発生が多い場合は、バリアード顆粒水和剤を2,000倍(50g)で使用する。			
5	5／7頃	黒 星 病	1. 展着剤	250ℓ	
		(カ メ ム シ 類)	2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc)		
			3. ユニックス顆粒水和剤 2,000倍 (50g)		
		1. 今回以降、カメムシ類の発生に注意し、カメムシ類の発生が多い場合は、アドマイヤー水和剤1,000倍(100g)を使用する。			
		2. ユニックス顆粒水和剤は、オウトウ、ラ・フランスにかかると薬害を生じるおそれがあるので注意して散布する。			
6	5／14頃	黒 星 病	1. 展着剤	250ℓ	
		カ イ ガ ラ ム シ 類	2. ファンタジスタ顆粒水和剤 4,000倍 (25g)		
		ア ブ ラ ム シ 類	3. コルト顆粒水和剤 3,000倍 (33g)		
		1. クワコナカイガラムシの発生が多い場合、コルト顆粒水和剤を3日程度繰り上げ散布する。			
今回以降、散布間隔が10日間隔となるが、10日以上あけないよう注意する。また、規定の散布量を厳守すること。					
7	5／21頃	黒 星 病・ニセナシサビダニ	1. 展着剤	250ℓ	
		(アブラムシ類)(ハマキムシ類)	2. ユニックス顆粒水和剤 2,000倍 (50g)		
		(シ ン ク イ ム シ 類)	3. ピラニカ水和剤 1,000倍 (100g)		
		(ク ワ コ ナ カ イ カ ` ラ ム シ)			
		1. ナシシンクイタマバエの発生に注意する。			
		2. ユニックス顆粒水和剤は、オウトウ、ラ・フランスにかかると薬害を生じるおそれがあるので注意して散布する。			
		3. ハマキムシ類、シンクイムシ類、クワコナカイガラムシの発生が多い場合は、サイアノックス水和剤1,000倍(100g)も使用する。			
8	6／1頃	輪 紋 病	1. 展着剤	300ℓ	
		黒 星 病	2. オキシラン水和剤 500倍 (200g)		
		ア ブ ラ ム シ 類	3. ウララDF 4,000倍 (25g)		

【 な し 】二十世紀・南水 (防除暦88～89頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量	
4	落花1週間後 蜜蜂引上げ後 4／30頃	黒 斑 病	合ピレ剤使用可能地域	250ℓ	
		黒 星 病	1. ポリオキシシンAL水和剤 1,000倍 (100g)		
		シ ン ク イ ム シ 類	2. キノンドー顆粒水和剤 1,000倍 (100g)		
		ク ワ コ ナ カ イ ガ ラ ム シ	3. バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g)		
		ア ブ ラ ム シ 類	合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)		
		ハ マ キ ム シ 類	1. ポリオキシシンAL水和剤 1,000倍 (100g)		
			2. キノンドー顆粒水和剤 1,000倍 (100g)		
			3. サイアノックス水和剤 1,000倍 (100g)		
		1. キノンドー顆粒水和剤はリンゴにサビ果を生じるおそれがあるので注意して散布する。			
		2. シンクイムシ類、アブラムシ類、カメムシ類の発生が多い場合は、バリアード顆粒水和剤を2,000倍(50g)で使用する。			
5	5／7頃	黒 斑 病	1. 展着剤	250ℓ	
		黒 星 病	2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc)		
		(カ メ ム シ 類)	3. ユニックス顆粒水和剤 2,000倍 (50g)		
		1. 黒斑病の果実感染が多くなるので果実に十分薬液がかかるように散布する。また、散布後できるだけ早く袋掛けを行う。			
		2. 今回以降、カメムシ類の発生に注意し、カメムシ類の発生が多い場合はアドマイヤー水和剤1,000倍(100g)を使用する。			
		3. ユニックス顆粒水和剤は、オウトウ、ラ・フランスにかかると薬害を生じるおそれがあるので注意して散布する。			
6	5／14頃	黒 斑 病	1. 展着剤	300ℓ	
		黒 星 病	2. ファンタジスタ顆粒水和剤 4,000倍 (25g)		
		カ イ ガ ラ ム シ 類・アブラムシ類	3. コルト顆粒水和剤 3,000倍 (33g)		
		1. クワコナカイガラムシの発生が多い場合、コルト顆粒水和剤を3日程度繰り上げ散布する。			
		黒 斑 病・黒 星 病・ハダニ類	1. 展着剤		
		ニセナシサビダニ・(ハマキムシ類)	2. ユニックス顆粒水和剤 2,000倍 (50g)		

7	5／21頃	(シンクイムシ類)(クワコナカイガラムシ)		3. ピラニカ水和剤	1,000倍	(100g)	300ℓ	
		1. ハマキムシ類、シンクイムシ類、クワコナカイガラムシの発生が多い場合は、サイアノックス水和剤1,000倍(100g)も使用する。						
		2. ユニックス顆粒水和剤は、オウトウ、ラ・フランスにかかると薬害を生じるおそれがあるので注意して散布する。						
8	6／1頃	黒	斑	病	1. 展着剤		300ℓ	
		黒	星	病	2. オキシラン水和剤	500倍		(200g)
		ア	ブ	ラ	ム	シ		類

【 り ん ご 】(防除暦 50～52頁参照)

摘果剤(マイクロデナポン水和剤)を使用する場合は、防除暦65頁を参照。

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
3	落花直後 蜜蜂引上げ後	斑 点 落 葉 病 う ど ん こ 病 赤 星 病 ・ 褐 斑 病 黒 星 病 モ ニ リ ア 病 ・ ハ マ キ ム シ 類	合ピレ剤使用可能地域 1. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50cc) 2. デランフロアブル 2,000倍 (50cc) 3. バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g) 【カルシウム剤】	250ℓ
		キ ン モ ン ホ ソ ガ ギ ン モ ン ハ モ グ リ ガ ケ ム シ 類 ア ブ ラ ム シ 類 シンクイムシ類・リンゴワタムシ	合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50cc) 2. デランフロアブル 2,000倍 (50cc) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g) 【カルシウム剤】	
		1. ミツバチ、マメコバチなど訪花昆虫を利用しているので回収(引上)後に散布する。 2. モモチョッキリゾウムシの発生が多い場合は随時成虫を捕殺するとともに被害果を採取して水づけにより完全に処理する。		
4	落花2週間後 (遅れないよう注意) 5／13頃	褐 斑 病 ・ 斑 点 落 葉 病 黒 星 病 ・ 黒 点 病 モ ニ リ ア 病 ・ (赤 星 病) 果 実 の 表 皮 障 害 防 止 (モモシンクイガ)(ヒメボクトウ)	1. 展着剤 2. ビタカルシウム55 90倍 (1,100g) 3. デランフロアブル 2,000倍 (50cc) ★落花の時期は地域により異なるので、各園地の落花時期を参考に遅れないよう散布する。	350ℓ
		1. 落花2週間後の防除が遅れると、サビ果(葉害)等の発生する恐れがあるので適期防除に努める。 2. 黒点病の重要防除時期なので、今回以降、降雨が続く場合はチオノックフロアブル500倍(200cc)を1週間後に散布する。 3. モモシンクイガ・ヒメボクトウの発生が多い園では「バイオセーフ」を使用する。使用にあたっては17ページを参照する。		
5	落花30日後 (早くなりすぎないように注意。直径23ミリが目安です。) 5／28頃	斑 点 落 葉 病 ・ 黒 点 病 黒 星 病 ・ 褐 斑 病 モ ニ リ ア 病 ・ 炭 そ 病 す す 点 ・ す す 斑 病 (腐 ら ん 病)(う ど ん こ 病) (リンゴワタムシ)(アブラムシ類)	1. 展着剤 2. アントラコール顆粒水和剤 500倍 (200g) 【カルシウム剤】	500ℓ
		1. 腐らん病の発生が多い場合は、トップジンM水和剤1,500倍(65g)も使用する。 2. アブラムシ類(リンゴワタムシ)の発生が多い場合は、トランスフォームフロアブル2,000倍(50cc)も使用する。		

【 ぶ ど う 】(防除暦124～125頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
3	蜜蜂引上げ後 展葉5～6枚頃	晩腐病・黒とう病・べと病 (フタテンヒメヨコバイ) (チャノキイロアザミウマ)	1. 展着剤 2. ドーシヤスフロアブル 2,000倍 (50cc)	200ℓ
		※フタテンヒメヨコバイの発生が多い場合は、スカウトフロアブル2,000倍(50cc)を使用する。但し、合ピレ剤使用規制地域では使用しない。		
4	5月中旬頃 展葉 8～9枚頃	黒とう病・べと病・晩腐病 褐斑病・灰色かび病・カイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ	1. 展着剤 2. オーソサイド水和剤 800倍 (125g) 3. スプラサイド水和剤 1,500倍 (65g)	200ℓ
		1. 晩腐病の重要防除期に入るので10a当り200ℓ以上、また散布間隔を10日以上あけないこと。		
※ブドウネアブラムシの発生が見られる園では、モスピラン粒剤30g／㎡(但し、6kg/10a以下樹冠下または、主幹周辺に散布)を使用する。				
5	5月下旬頃 開花前 11～12枚頃	黒とう病・べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病 フタテンヒメヨコバイ・カイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ	1. ジマンダイセン水和剤 1,000倍 (100g) 2. フルーツセイバー 1,500倍 (65cc) 3. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	200ℓ
		1. 今回からは、果実汚染(果粉溶脱)のおそれがあるので展着剤を使用しない。 2. 合ピレ剤使用規制地域では、モスピラン顆粒水溶剤にかえてアドマイヤー顆粒水和剤1万倍(10g)を使用する。		

【 お う と う 】(防除暦 144～146頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
4	蜜蜂引上げ後	灰星病・炭そ病・褐色せん孔病 カイガラムシ類・カメムシ類 (ハマキムシ類)(アブラムシ類)	1. 展着剤(ラビデン3S) 2. オーソサイド水和剤 800倍 (125g) 3. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	400ℓ
		1. 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では、モスピラン顆粒水溶剤にかえてダイアジノン水和剤1,000倍(100g)を使用する。		
5	5／15頃	灰星病・褐色せん孔病 黒斑病・炭そ病・ハダニ類	1. ナリアWDG 2,000倍 (50g) 2. カネマイトフロアブル 1,000倍 (100cc)	300ℓ
		1. 灰星病、ハダニ類の重要防除時期なので、遅れないように散布する。 2. ナリアWDGは、ピオーネとル・レクチェに対し、薬害を生じるのでかからないように注意する。 3. カネマイトフロアブルは、収穫前7日なので早生種には注意する。		
		灰星病・炭そ病・黒斑病	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50cc)	

6	5／25頃	ハマキムシ類・カメムシ類	2. テツパン液剤	2,000倍	(50cc)	300ℓ
		オウトウショウジョウバエ	3. まくぴか	5,000倍	(20cc)	
		1. 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では、テツパン液剤にかえてスプラサイド水和剤1,500倍(65g)を収穫前日数に注意し使用する。				
7	収穫直前 6／5頃	灰 星 病	1. ロブラール500アクア	1,500倍	(65cc)	300ℓ
		オウトウショウジョウバエ	2. ディアナWDG	10,000倍	(10g)	
		ハマキムシ類	3. まくぴか	5,000倍	(20cc)	

【 か き 】(防除暦 156～157頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
2	蜜蜂引上げ後 展葉期 5月上旬	カ キ ク ダ ア ザ ミ ウ マ チ ャ ノ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ カ キ ノ ヘ タ ム シ ガ	1. 展着剤 2. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	300ℓ
		1. 合ピレ剤使用規制地域では、モスピラン顆粒水溶剤に替えてオリオン水和剤1,000倍(100g)を使用する。		
特別 散布	開花直前	ア ザ ミ ウ マ 類 カ イ ガ ラ ム シ 類・カ メ ム シ 類	1. 展着剤 2. スプラサイド水和剤 1,500倍 (65g)	400ℓ
		1. 平核無については、必ず散布すること。(花が1、2輪咲いた頃)		
3	落花直後 5月下旬	炭そ病・すす点病・うどんこ病 落葉病・アザミウマ類・カメムシ類 カイガラムシ類・(ハマキムシ類)	1. 展着剤 2. フルーツセイバー 1,500倍 (65cc) 3. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	400ℓ
		1. 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では、モスピラン顆粒水溶剤にかえて、ダイアジノン水和剤 1,000倍(100g)を使用する。		

【 す も も 】(防除暦 167～168頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
2	落花後 蜜蜂引上げ後 4／30頃	黒斑病 アブラムシ類	1. 展着剤 2. アグレプト水和剤 1,000倍 (100g) 3. モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 (25g)	300ℓ
		1. 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では、モスピラン顆粒水溶剤にかえてアドマイヤー水和剤2,000倍(50g)を使用する。		
3	5／10頃	黒斑病	1. 展着剤 2. マイコシールド 2,000倍 (50g)	300ℓ
特別散布	5／20頃	カイガラムシ類幼虫 (モモシンクイガ)	1. 展着剤 2. アプロードフロアブル 1,000倍 (100cc)	300ℓ
		1. スモモヒメシンクイの発生に注意する。		
4	5／30頃	シンクイムシ類 ハマキムシ類・ケムシ類	1. 展着剤 2. フェニックスフロアブル 4,000倍 (25cc)	300ℓ
		1. 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では、フェニックスフロアブルにかえてダーズバンDF3,000倍(33g)を使用する。		

【 う め 】(防除暦 178～179頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
3	蜜蜂引上げ後 4／30頃	黒 星 病 ア ブ ラ ム シ 類 (か い よ う 病)	1. 展着剤 2. コロナフロアブル 400倍 (250cc) 3. ダイアジノン水和剤(21日前) 1,000倍 (100g)	350ℓ
		1. 例年かいよう病の発生が見られる園では、マイコシールド 1,500倍(65g:21日前まで)も使用する。 (収穫前日数に注意する)		
4	5／10頃	黒 星 病 ア ブ ラ ム シ 類 カ メ ム シ 類	1. 展着剤 2. コロナフロアブル 400倍 (250cc) 3. アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	350ℓ
		1. 小梅・白加賀は今回の散布で終了。 2. 合ピレ剤使用規制地域では、アルバリン顆粒水溶剤にかえてスミチオン乳剤2,000倍(50cc)も使用する。 <u>但し、小梅には使用しない。</u>		
特別散布	5／25頃 (高田梅)	黒 星 病 灰 色 カ ビ 病	1. 展着剤 2. インダーフロアブル 5,000倍 (20cc)	350ℓ

【 ネ ク タ リ ン 】(防除暦 188～190頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)		SS 散布量
4	落花10日後 蜜蜂引上げ後	せ ん 孔 細 菌 病 ・ 黒 星 病	1. スターナ水和剤	1,000倍 (100g)	300ℓ
		ア ブ ラ ム シ 類 ・ カ メ ム シ 類	2. コロナフロアブル	400倍 (250cc)	
		モモハモグリガ・シンクイムシ類	3. モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍 (25g)	
		1. 合ピレ剤使用規制地域では、モスピラン顆粒水溶剤にかえて、アドマイヤー水和剤2,000倍(50g)を使用する。カメムシ類の発生が多い場合は、アドマイヤー水和剤1,000倍(100g)で使用する。			
5	5／10頃	せ ん 孔 細 菌 病	1. 展着剤		300ℓ
		黒 星 病	2. チオノックフロアブル	500倍 (200cc)	
			3. マイコシールド	2,000倍 (50g)	
6	5／20頃	せ ん 孔 細 菌 病 ・ 黒 星 病	1. 展着剤		300ℓ
		(モモシンクイガ)(ウメシロカイガラムシ)	2. デランフロアブル	600倍 (165cc)	
		1. カイガラムシ類の発生が多い場合は、アプロードフロアブル1,000倍(100cc)も使用する。			
7	5／30頃	黒 星 病 ・ せ ん 孔 細 菌 病	1. チオノックフロアブル	500倍 (200cc)	300ℓ
		ハ マ キ ム シ 類 ・ シ ン ク イ ム シ 類	2. マイコシールド	2,000倍 (50g)	
		モ モ ハ モ グ リ ガ	3. フェニックスフロアブル	4,000倍 (25cc)	

	1. 合ピレ剤使用規制地域では、フェニックスフロアブルにかえて、サイアノックス水和剤1,000倍（100g）を使用する。	
--	--	--

★農薬散布は、無風又は風の弱いときに行うなど、近隣に影響の少ない天候の良い日を選んで散布しましょう。散布時間帯についても通学や出勤時間帯は避け、住宅地に混在している園地では十分注意して散布をお願い致します。

※不明の点がありましたら、各地区指導員にお問い合わせください。